

健康登山35:周辺の山18 (室生 三郎ヶ岳)

コース	高井バス停 2.0km/42 0.8km/26 1.7km/36	仏隆寺 1.4km/30 三郎ヶ岳 0.7km/30 諸木野集落 3.1km/49	小峠 0.7km/38 旧伊勢本街道 0.4km/16 高井バス停 4.5km/68	高城山 石割峠下 榛原駅
水平距離	15.3km		断面図 縦軸: 高度m 横軸: 距離km	
水平換算距離	16.8km			
累計高低差	登り817m、下り862m			
標準歩行時間	5:35			
実績歩行時間	5:49			



山行報告

山行日	2008・4・03 (木)	天候	曇りのち晴れ	参加者	6名
行動	榛原駅9:30 (タクシー)	高井バス停9:57	仏隆寺10:29	小峠11:05	高城山11:27
	~12:03	三郎ヶ岳12:38	石割峠13:00	旧伊勢本街道13:26	石割峠13:50
		諸木野集落14:17	千本杉15:21	高井バス停15:38	榛原駅16:46

記録

快晴予報だったが午前中は曇りで風が強く寒かった。汗をかかずに歩けたのはよかった。近鉄京都駅8:01発檀原神宮行急行に乗ると9:27に榛原駅に着く。榛原駅からタクシーに分乗して高井バス停まで行き10時から歩き始めた。仏隆寺までの参道は約2kmの緩やかな登りで道端の草花を見ながら歩いた。標高500mにある仏隆寺の千年桜はまだ咲いていなかった。仏隆寺前には高井、室生寺、小峠へ向かう三叉路があり、南の小峠へ向って歩き上儀の集落を抜け、林道を登り右手に池が見えるとすぐ小峠につく。ここから山道になり、急坂を20分ほど登ると高城山につく。山頂に展望所があり鳥瞰図には南の高見山から西の生駒山までが描かれているが遠くの山は見えなかった。三郎ヶ岳は高城山の東600mにあり樹間から台形の山が確認できた。東屋で風を避けながら昼食をした。高城山からコブを一つ越え、100mの急坂を登り切ると二等三角点のある三郎ヶ岳につく。頂上からはほぼ360度の展望が楽しめる。下山は80mほどの急坂下りだが雨天時には歩きにくい道である。急坂の末端部に日蓮上人の座像と経文などが彫りこまれた石仏群がある。この辺りから傾斜が緩くなり、しばらく歩くと右:石割峠、左:血原橋の道標があった。地図で確認せず石割峠の道を下り、旧伊勢本街道に出たがそこは石割峠の西側だった。石割峠の東にある明開寺本院跡に下る予定だったので道を間違えてしまった。道標に頼らず常に地図で確認する大切さを再認識した。石割峠まで往復して確認した。

今回の山行の目的は三郎ヶ岳に登ることと、旧伊勢本街道を歩くことである。そこで榛原駅までは可能な限り旧伊勢本街道を忠実にトレースした。街道で見たものは石割峠、愛宕神社、諸木野集落、諸木野弥三郎の墓、諸木野関所跡、千本杉、榛原古民家松本家住宅、弘法大師の岩清水、墨坂神社などである。榛原駅16:55発に乗り、京都駅には18:18に着いた。

周辺の山 (室生 三郎ヶ岳)



高井の出発点
9:55

仏隆寺の桜
10:38



高城山から
三郎ヶ岳
11:32

高城山にて
11:35



三郎ヶ岳にて
12:38

三郎ヶ岳の
急斜面を下る
12:55



石仏
13:00

諸木野集落の
東屋で小休止
14:18



千本杉
15:21

墨坂神社
16:29



名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：室生 三郎ヶ岳 & 伊勢本街道）

参考資料、HP／他より

- ◎ 高井 : 伊勢街道と室生古道の分岐点。宿場町であった。
- ◎ 高井千本杉：井戸の周囲に数本の蜜植えされた吉野杉が成長し、株元が癒着したもので地上1m位から、16本の枝幹が数えられます。
樹齢は主幹が推定600年以上、「井戸杉」では県下で最大最古、天然記念物に指定されています。伊勢本街道沿い、高井から徒歩13分。仏隆寺へ迂回出来ます。
(高井の辻近くにある、伊豆神社にも大杉が有ります)

「井戸杉」とは、水を求めて井戸を掘り、その周りに杉を植えて、杉の揚水力で水を集める工夫です。千本杉の井戸は、今は涸れています。

- ◎ 仏隆寺 : 真言宗室生寺派。嘉祥3年(850)空海の高弟堅恵けんゑが創建。(拝観料100円)
それ以前に、室生寺の基礎を築いた興福寺別当修円が住み、室生寺の南門といわれた。
本尊は聖徳太子作の十一面観音立像。
本堂の裏に修円の墓と伝わる元徳2年(1330)銘のある十三重石塔が建っている。

【あかばねげんぞう赤植源蔵の墓】本堂の裏にある。赤穂浪士の一人。「忠臣蔵、徳利の別れ」で有名。

【堅恵の石窟】方形屋根の石窟で平安時代前期の築造といわれ、国重文になっている。
羨道と玄室からなっていて、奥に鎌倉時代の五輪塔がある。

【大和茶発祥の地】空海が持ち帰ったお茶の種を、高弟堅恵が貰うけ、寺内に植えたので、大和茶の発祥地とされている。空海が持ち帰った茶臼もある。

【モチズキ桜】仏隆寺のヤマザクラとして天然記念物に指定されている。
樹齢900年県下最大最古の桜。根周り7.7m、樹高16m。

【大和三名段】197段の石の階段の両脇に、9/中～10/初は彼岸花が咲き誇る。
大和の三階段とは＝談山神社、仏隆寺、室生寺。

- ◎ あか赤植城跡標識：上城、下城があったそうです。

- ◎ ^{たかぎやま}高城山 : 宇陀市で四番目に高い山。山頂に雨乞いの祠が建つ。5/3はまつりがあります。
①三郎ガ岳△879m、②貝ヶ平岳△833m、③額井岳△816m、④高城山 810m。

神武東征の伝承地、「菟田の高城」この地でないかといわれています。
展望はよく、北方に、額井岳、香酔山、貝ヶ平山。西に、生駒、葛城、金剛山。南に大峰、山上ヶ岳などがみえます。

- ◎ 三郎ガ岳:宇陀市で一番高い山。二等三角点がある。^{あかばね}赤植と室生の境界に位置している。
高城山からの笹の稜線は、ササユリの自生地。
見晴らしは、高城山よりも良く、東に室生火山群の住塚山、国見山が間近せまる。西に龍門山系の音羽三山(音羽山、経ヶ塚山、熊ヶ岳)二上山、葛城、金剛。南東に高見山。北東に、青山高原の風力発電塔群が見られる。

- ◎ 明開寺奥の院 : 石割山明開寺跡(日蓮宗)と山門、磨崖仏が残る。

- ◎ 血原分岐 : 血原の地名は神武天皇大和平定のはじめ、宇陀の未開の土地を開拓しながら苦勞して進まれていた。土地を切りうがって進んだところから、ウガチの^{むら}邑と呼び、それがウガシ村になって、宇賀志の地名ができたという。

この地方に、^{えうかし}兄猾(兄宇迦斯)、^{えうがし}弟猾(弟宇迦斯)の兄弟がいたが、弟は先ず帰順したが、兄は反抗して、天皇を、御殿の押し機に落とそうと企んだ。弟猾の進言で天皇はこれを察し、その仕掛けを逆用して、兄猾を押し殺し討伐した。その時の血が、野原一面を覆ったので、そこを「血原」と呼んだという。今も血原川があり、血原橋が架かっています。(やがて室生川に合流し、室生寺に至ります)

- ◎ 石割峠 : 榛原町と室生村の境界。標高 695m。伊勢本街道最初の難所といわれ 20 程ある峠で、最も標高の高い峠。三郎ガ岳と南の山の鞍部を石で割って開いた峠。冬季に凍結して氷が石を割ったとも言われている。

- ◎ ^{もろきの}諸木野 : 伊勢本街道の宿場の一つで、旅籠が 9 軒あったという。
かつては「諸木野関所」が有り、関所付近に宿場が出来た。宿場に大火があり、後に愛宕神社が祀られた。

榛原角柄から石割峠の 12 km の間に関所が六つあり、それぞれの荘園領主が関税をとり旅人を悩ませたという。

(角柄関、萩原関、高井関、壱名関、下司名関、大久保名関)

〈伊勢本街道は高井宿松本屋～千本杉～石割峠～御杖村～伊勢へとつづく〉

【諸木野弥三郎の墓】弓の名手

伊勢松阪大河内城の北畠具教軍^{きたばたけのりとも}で1ヶ月籠城して、織田信長軍と戦う。
その強弓に感服した敵将の信長は、射た矢に褒美を付けて送り返したという。

信長の次男信雄が養子に入ることによって北畠側は和睦したが、しかし当主となった信雄に、北畠具教は暗殺される。

- ◎ 墨坂神社：神武東征の砌、合戦のあった「墨坂」から文安6年(1450)に当地に遷座された。本殿は元治元年(1864)春日大社の本殿を拝領。

祭神：天御中主神。高皇産靈。神皇靈神。伊邪那岐命。伊邪那美命。大物主神の六柱（総称墨坂大神）

崇神9年(380)疫病が蔓延、天皇の夢にお告げが有り赤盾8枚、赤矛8竿を持って墨坂の神を祀れとお告げが有りそれに従ったところ疫病はたちどころに平癒した。

【墨坂/(西峠)】榛原駅北、榛原小学校の東に「墨坂伝承地石碑」がある。

「八十梟師^{やそたける}」が神武軍の侵攻を阻止するため、この坂(西峠)に、おこし炭を置いて防戦したところ。

神武軍は菟田川を堰止めて消化し、進軍。男坂(栗原半坂峠)で対峙していた八十梟師軍の兄磯城^{えにしき}を後方より、挟み撃ちにして討ち果たし、勝利している。

*八十は「多く」の意。梟は「抜きん出ている」の意。総じて勇ましく強い將軍。